

今年、灯台150周年です

現在、全国にある灯台の始まりは、明治の初めに導入された洋式灯台にさかのぼります。

江戸末期、英・米・仏・蘭の4か国が、関門海峡を舞台に長州藩と戦った下関戦争の賠償の一環として、開港した各港への灯台の設置を約束させ、1番目に建設された灯台が、神奈川県横須賀市にある観音埼灯台です。

明治元年11月1日に、この観音埼灯台の建設を着手しており、この年を基点として、平成30年は、灯台の近代化150周年にあたります。

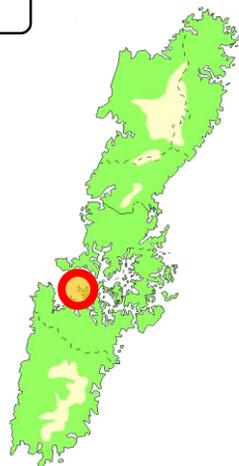
対馬の主な灯台

灯台150周年にあたり、対馬に設置されている主な灯台を毎月順番にご紹介します。

その9 芋埼灯台

芋埼灯台は、浅茅湾の中央部に位置し、浅茅湾を航行する船舶の重要な役割を果たしている灯台です。

芋埼灯台 (長崎県対馬市美津島町)

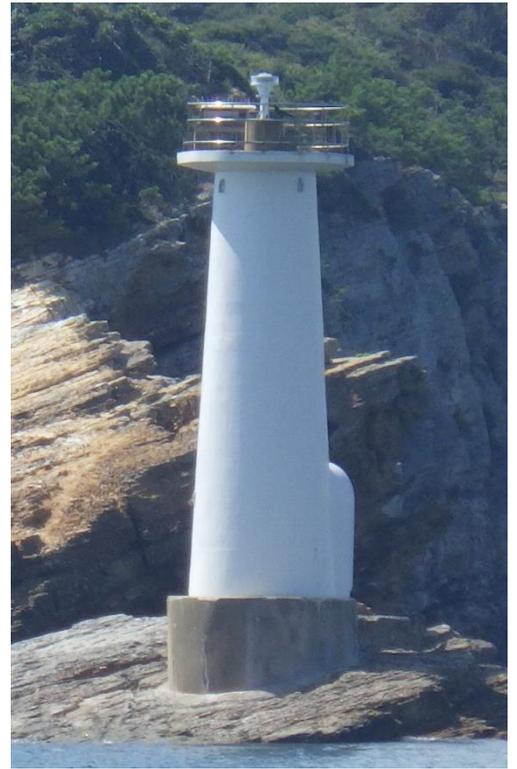




西側から芋崎灯台を望む



東側から芋崎灯台を望む



灯台全景



芋崎灯台
初点昭和52年1月

【参考】

芋崎には、文久元年(1861)芋崎を半年間も占拠したロシア軍艦泊留地と日清戦争前の明治21年に築造された芋崎砲台があります。

芋崎砲台の着工は、東京湾に次ぐ日本で2番目のものであり、石造りとレンガ造りが混交している全国でも珍しい砲台です。